

Interview

今日のインドの家庭は小津安二郎の世界に近い

パヤル・カパーリヤー監督インタビュー

佐藤久理子＝取材・文



©Ramish Das

ムンバイに対するラブレターとも言える作品だ。「わたしはムンバイで生まれ、いまもベースはムンバイです。だからこの街には特別な思いがある。母は映画好きでアーティストで、わたしが子供の頃によく映画館に連れていかれてくれました。当時ムンバイには小さな映画祭がたくさんあって、多くの異なるタイプの作品に触れることができた

初長編フィクションにして、2024年のカンヌ国際映画祭でグランプリを受賞し、インドから新たな才能が生まれたと賞賛されたのが、パヤル・カパーリヤー監督の新作『私たちが光と想うすべて』である。現代のムンバイを舞台に、年齢や境遇の異なる女性たちが交差する群像劇。ドキュメンタリーのようなスタイルを取り入れた詩的で繊細な、

冒頭はドキュメンタリーの様子で、自分もそうありたいと思っていました。冒頭はドキュメンタリーのようにしたかった。ムンバイで

ので、映画監督を目指すようになったのも自然な成り行きでした。両親もわたしにアーティスティックな道に進むことを応援してくれたのは、とても恵まれていたと思います。冒頭はムンバイの街の様子が移動撮影で映し出される。ルームメイトである看護師のプラバと年下の同僚アヌは、共に悩みを抱えている。プラバは親の意志で結婚した夫がドイツに出稼ぎに行き、1年以上も音沙汰がない。アヌは周囲に内緒でイスラム教徒の男性と付き合っていたが、徐々に同僚たちのなかで噂となる。そんなとき、ふたりの共通の友人が、再開発のためアパートの立ち退きを命じられる。「わたしは学生時代に好きだったのは、フィクションとノンフィクションが混ざったような作品を撮る監督たち。アピチャップポン・ウィーラセタクン、ミゲル・ゴメス、ホセ・ルイス・ゲリンなど。彼らの映画はひとつのカテゴリに捉われることなくとても個性的で、自分もそうありたいと思っていました。」

「わたしは学生の頃は、彼氏を持って、ましてや手を繋いで歩いたりすることはタブー

撮影許可を取ることはお金が掛かるので、車の後ろにこっそりカメラを置いて、ゲリラで撮影しました。映画に出てくるフードマーケットは、朝の4時から7時まで道に並ぶものです。この3時間だけの街の息吹をカメラに収めたかった。前半はカメラと被写体の距離をとって背景にいろいろなものが映るように意識しました。ムンバイではすべてが渾然一体となって、何も孤立したものがないからです。でも主人公たちが旅に出る後半は逆に、カメラをキャラクターに近づけ、人物の内面に深く入っていくことを目指しました。内省的で、夢のような雰囲気を出したかったのです。サウンドデザインでも、たゆたうようなムードが欲しいかったので、インドのコンテンポラリーなミュージシャンにお願いして作曲してもらいました」

「若い女性のアヌが異教徒の男性とデートをする姿には、インド社会の変化を思わせられるかもしれない。カパーリヤー監督は語る。

「わたしは学生の頃は、彼氏を持って、ましてや手を繋いで歩いたりすることはタブー

パヤル・カパーリヤー 1986年、インド・ムンバイ生まれ。インド映画テレビ研究所で映画の演出を学ぶ。初長編ドキュメンタリー『何も知らない夜』と本作が世界で賞賛を浴び、世界から注目を集める映画監督の一人となった。

19
COMING SOON!7.25
FRI
ROADSHOW

私たちが光と想うすべて

原題: All We Imagine as Light

世界が絶賛するインド新鋭監督のカヌ映画祭グランプリ受賞作



上：看護師のプラバ（左）とアヌはルームメイト。下左：プラバはバルヴァティ（左）を助けようとする。下右：アヌには秘密の恋人がいた。

INTRODUCTION

大都会ムンバイで生きる女性たちが、人生のままならない状況に對峙しながら、ありのままでいたいと願い支え合う姿を細やかに描き出した。パヤル・カパーリヤー監督は初長編ドキュメンタリー『何も知らない夜』（21年）がカンヌ映画祭ゴールデンアイ賞を受賞、山形国際映画祭でもロバート&フランシス・フラハティ賞（大賞）を受賞。初の長編劇映画である『私たちが光と想うすべて』では、ドキュメンタリー映画の手法を駆使し、人々の息遣いを感じさせる傑作となった。本作は第77回カンヌ国際映画祭でグランプリを受賞した。

STORY

インドのムンバイで看護師をしているプラバと、年下の同僚でルームメイトのアヌ。プラバは親が決めた相手と結婚したが、仕事でドイツに行った夫はもうずっと音沙汰がない。アヌにはイスラム教徒の恋人がいるが、親には内緒だった。そんな時、病院の食堂に勤めるバルヴァティが再開発のために立ち退きを迫られ、故郷の海辺の村へ帰ることになる。プラバとアヌは、一人で生きていくというバルヴァティを村まで見送る旅に出る。

STAFF & CAST

監督・脚本：パヤル・カパーリヤー／出演：カニ・クスルティ、ディヴィヤ・プラバ、チャヤ・カダム／2024年／フランス、インド、オランダ、ルクセンブルク／118分／配給：セテラ・インターナショナル／© PETIT CHAOS - CHALK & CHEESE FILMS - BALDR FILM - LES FILMS FAUVES - ARTE FRANCE CINÉMA - 2024